

持続可能な社会(街)をめざして

— 店主たちの果敢な挑戦 —

はせがわ だい
長谷川 大

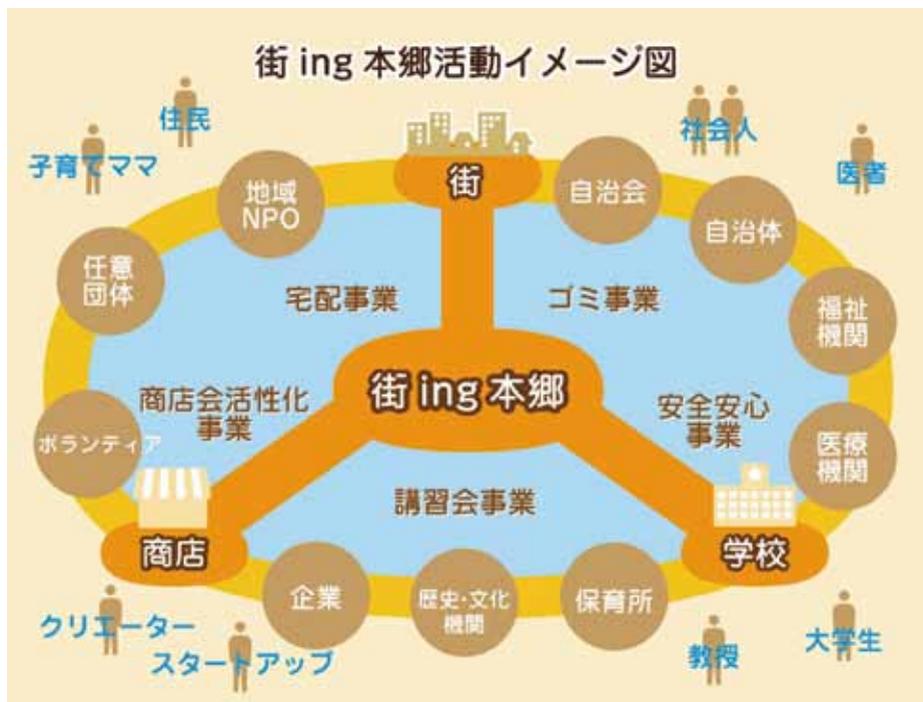
特定非営利活動法人 街ing本郷
代表理事



要 旨

自分たちの街を自分たちの手で元気にしたい。そして、次の世代へ引き継ぐためにどうしたらいいか？代々住むものだからこそ、店主だからこそ、できることがあるのではないか？そんな思いからスタートした活動である。多くの方々のご協力とご支援とご指導とあきらめない思いの8年間の歩みと現在の課題を伝えます。

前例のない「つなげる組織」による三方よしの街の活性化、多種多様な地域課題（担い手不足、高齢化、空き家問題、防災環境、若者支援等）に対応する、街づくり活動、その仕組みづくり、場づくり、チームづくり、人づくりを行う組織の設立により多くの活動を生み出し、持続可能な社会（街）をめざしています。



1 | はじめに

(1) 気づき

今から10年前、ふとした気づきから始まった。10年後、20年後、我が街はどうなってしまうのだろうか？どうして、なぜ、どうすればと想いを巡らせる日々。愛する我が街を元気にしようとする活動はたくさんある。無いわけではない。担い手の高齢化や不足、店主たちに集中する現象。一方、新たに参加したいとの声もある。それが結びつかない現実。地域には様々な組織が存在し、複雑に絡み合い、長い歴史を積み重ねて今がある。自治会や商店会をはじめ、防犯、防災、教育、環境、等々カテゴリーや地域ごとにそれぞれ活動している。必要なのは仕組みではないだろうか？一個人ではなく、組織ではないだろうか？と気づいた。2年間の準備期間（商店会・自治会等地域の各種組織の総会にて説明会実施）をかけ、誰とでも「つながる」NPO法人を設立した。

(2) 設立趣旨書

【みんな（街・人）つないで、笑顔にする】

文京区本郷（地区）では、各商店会、各自治会が地域コミュニティ活動の中心を担ってまいりました。しかしながら、役員の担い手不足や商店を取り巻く経済状況の長引く低迷と後継者不足による加盟店減少、地域コミュニティ活動の人材面、資金面の不足が懸念されています。

一方、街は、都市回帰による新住民の増加、そして小・中学校の生徒増加、それにとまなう商店会に加盟しない新規出店、フランチャイズ店の増加があります。このような課題に対処する上で、私たちは、本郷地区の「元気ある街づくり」を自らの手で行う、新たな枠組みが必要であるという考えに至りました。

そこで、地域住民－学校－商店街や自治体、企業をつなぐ、参加型の地域コミュニティネットワークの組織を設立する事になりました。

活動にあたっては、地域の支援と発展を目的とする観点から営利目的の組織ではなく特定非営利活動（NPO）法人を2010年に設立しました。

私たちの『街 ing 本郷』の名に込めた思いは、～ing－街づくりの進行する未来と地域住民とそれに関係する様々な方々が、英単語 matching（調和）する事を意味しています。住みよい豊かな本郷地区を築き、つなぐ役割を果たす組織を目的にしています。

【既存の組織を否定しない】

街はたくさんの組織が組み合わさって作られています。

自治会、商店街、学校、企業、自治体、福祉機関、医療機関、ボランティア団体、歴史・文化機関。その他数えきれないほどの組織によって成り立っています。

私たち街ing本郷は、これら既存の組織を否定するものでも代替するものでもありません。

各組織にはそれぞれの役割と強みがあり、これらの組織があつてこそ、充実した社会生活が送れるものだとは確信しています。しかし、各組織がともにつながり事業を実施するには、さまざまな障害が現れてくることも事実です。たとえば自治会と商店街はとても近い関係である一方で、事業をともに運営していくには不便な組織であつたりします。

そこで各組織が自由につながり、諸活動を行いやすい仕組みを作つて事業

をスムーズに実施する組織、街ing本郷を設立しました。



【NPO法人街ing本郷】 組織紹介 リーフレット表

活動紹介 リーフレット内面

2 | 背景

(1)－①地域について

東京都文京区本郷、JR山手線の内側、中央線に囲まれた都心中心区、地下鉄2駅4路線が通る。東京駅まで10分の利便性は高い。台地の上であり、坂の街として知られる。東京大学をはじめ、周辺にはその他多くの大学がある文教地区。地場産業は医療、印刷、それに関する中小企業が多い。大学病院(東京、順天堂、東京医科歯科、日本医科)、都立病院もあり、安全安心の街としても名高い。また、スポーツの中心機能もある(サッカー協会、講道館、東京ドーム等)。近年都心回帰により人口増加傾向である。その他歴史・文化等の多くの地域財産を有する。

(1)－②課題について

地域の担い手不足・後継者不足、新旧住民の共存、高齢化社会、空き家、地域財産の有効利用、地域活動の連携不足 等

(2)－①組織について

- ・名称－NPO法人街ing本郷(まっちゃんぐほんごう)
- ・設立－2010年12月
- ・会員数－正会員27名・賛助会員25名 計52名
- ・理事5名－代表理事 長谷川大(50歳)、鮮魚店三代目店主

副代表理事 和菓子屋店主（70歳代） 元自治会会長、避難所
運営委員 他

副代表理事 薬屋店主（60歳代） 元文京区薬剤師会会長 商
店会会長 他

理事 便利屋経営（40歳代）、不動産会社経営（40歳代）

- ・職員—常勤者なし、非常勤1名
- ・ビジョン—本郷の活性化—元気な街に
- ・ミッション—みんな（街・人）つないで笑顔にする
- ・事業—地域支援、安全安心、講習会、イベント等
- ・活動スタッフ20～30名—デザイナー、地域住民、学生、社会人、主婦、
起業家、団体職員 等

(2) ー② 課題について

- ・運営基盤の強化と安定
- ・収入源—会員数の増加、寄付金の増額
- ・活動メンバーの増加
- ・ネットワークの強化

3 | 想い

白いキャンバスにデザインするなら自由に絵が描ける。だが街というキャンバスは、永い歳月をかけ、また幾重にも織り重なり、絡み合いつでに絵が描かれている。そのすでに描かれているキャンバスの上にどう絵を描くのか？と考えた。先人の活動があり、その流れがあり、今がある。時代とともに街の形、人の行動が多様化して対応が困難になっただけであり、決して悪いわけではない。今もなお、その力によって日々動いている。新しいモノ（活動、施設）を始めるのではなく、すでにあるモノを活用しつつ、街の誰とでも連携できるようコーディネートする組織があれば対応できると考えた。

一つ一つの課題に対応する対症療法（怪我をしたら絆創膏を貼る、病気になったら薬を飲む）ではなく、地域全体を面で考え、今ではなく10年後に必要な体制づくりとするために、様々な課題に同時に対応する原因療法（ケ

ガをしない体力づくり、病気をしない健康づくり)の三方よし(したい人・されたい人・社会も街もうれしい)の街づくりを始めた。

(1) 仕組みづくり

街づくりに必要なのは『人』である。その人の関わる量によって決まる。若者・ヨソ者・バカ者の参加が街づくりに必要不可欠と言われるが、その仕組みがこの街にはないことに気づいた。すでに街にはたくさんの活動は存在するが、連携ができそうで、でも難しい事象が多くある。そこで、誰もが参加しやすく、誰とでも連携や協力やサポートする【つなげる】という名のNPO法人を設立した(2010年12月)。街での活動をスムーズに行なうには既存の組織を活かす事が大切である。よって、当組織は活動主体者になるのではなく、すでに街の活性化を担う団体、または人々のアイデア等、不足し始めている部分を『協力・支援・補完』するバックアップの組織。また、地域ですでにある様々な活動(別々の商店会・自治会、世代層、PTA、防犯、防災、消防団、医療、福祉等)において、担い手となる人々がこの組織に参加していることが仕組みづくりの大きなポイントである。

(2) 場づくり

理事は、新しいチカラ、若いチカラが発揮しやすい場づくりに徹する。常勤者もなく、事務所もない当組織だが、見方を変えれば理事全員の店が事務所であり、いつでも会えることが利点となる。また、理事の一声で街の多くの担い手の方々に会えるように調整する。理事の役割は、責任とアドバイスである。さらに、隔週月曜日の夜は誰でも参加できる定例会議を開催。事業の進捗状況や報告、新しい企画の相談などが議題となり、ここで様々なイノベーションが発生する。

(3) チームづくり

地域課題は、多種多様である。地域を面で考える組織としては、できるだけ多くの課題に対応している。そのためには、各分野を得意とするスタッフメンバーの集結が必須である。リーダーが中心となりチームを編成、運営やアドバイス、責任者となる理事をすえ、チーム(5~10名)がスタートする。常時3~5チームが稼働している。

(4) 人づくり

地域を担う人づくりが街づくりの最大のポイントである。体験、経験、実施、学びを通じて次の世代へ受け継がれる（育成）の社会的役割を伴う。また、ここで得たモノは他の地域において実施する人づくりも含まれる。それも次につなげる重要な役割となる。

4 | 取り組み

(1) 地域ブランディング

- ① 本郷百貨店 <http://hongohyakkaten.com/>（2014年4月～）
 《チーム》 商店街×デザイナー×学生×ライター×カメラマン
 《内容》 商店主を商品に見立て、地域で商いをする想いを紹介する企画。ウェブ、情報誌、似顔絵フラッグなどで情報発信。グッドデザイン賞2015受賞。
 《地域課題》 街において多くの活動の中心は、商店主が担う。よって、商店が持続可能になると街の持続が図られる。



【本郷百貨店】 商店主の“熱き想い”を伝える。

- ② 文人郷 <http://bunjinkyou.com/>（2012年4月～）
 《チーム》 歴史家×地方都市×デザイナー×学生×理事
 《内容》 多くの文人が居た事をブランディング化。情報誌、講演会、イベントを実施。地方都市と連携、関係構築をめざす。
 《地域課題》 地域財産である多くの文人・文豪（樋口一葉、宮沢賢治、森鷗外、石川啄木、坪内逍遙等）が居たことを活かし、出身地等と連携を深め双方の地域活性化を図る。

(2) 安全安心を図る活動

① ひとつ屋根の下プロジェクト <http://m-hongo.com/> (2014年4月～)

《チーム》 医者×学生×シニア×デザイナー ×有識者×理事

《内容》 家に空き部屋を持つシニアと学校の近くに住みたい学生が共生する企画。

地域の見守りも図られ三方よし企画。多数のメディアにて掲載。京都府など他地域の企画に協力している。異世代が共に暮らすことで、学生とシニアそれぞれが地域と結び付ききっかけとなり、街ぐるみでの見守りや生きがいを生み出す、新しい共助の関係をめざす。シニア側のメリットとしては、孤立感の解消や生きがいづくり、夜間の不安の解消、健康寿命の増進などが挙げられる。学生側のメリットとしては、寂しさや孤立感の解消、シニアのみなさんからの知恵や経験の移転、大学の近くで格安で住めることなどが挙げられる。実績数5組、現在1組共生中。

《地域課題》 高齢化社会に対応する街づくりにおいて、地域財産である学生が多く居る事と商店主だからこそ知りえる独り住まいのシニアの存在の把握との連携により街の安全安心を図る。



【ひとつ屋根の下プロジェクト】 募集チラシ



シニアと学生の共生の様子

② 書生生活 <https://www.shosei.tokyo/> (2011年4月～)

《チーム》 大家×学生×自治会×デザイナー ×不動産屋

《内容》 地域と関わりながら暮らす学生の新しいライフスタイル。現在10名参加、2017年3月時点で、11名の卒業生を社会へ送り出している。

《地域課題》 地域の空き資産と、学校の近くに住みたい学生と、地域の担い手がほしい街の連携を図る。多くの地域課題が同時に解決される。



【書生生活】 活動案内 リーフレット



【黄色いしるし作戦】 説明チラシ

③ 黄色いしるし作戦 (2012年4月～)

《チーム》 自治会×消防団×デザイナー ×有識者

《内容》 防災活動、および地域の防災意識向上

《地域課題》 高齢化した地域社会の限られた担い手の有効活用を図る。災害が起きた後にどうするか？や、地域の防災意識の向上も図る。

(3) 地域支援

① イベント企画、運営 (2010年4月～)

《チーム》 理事×学生×デザイナー

《内容》 商店街・自治会に協力

《地域課題》 商店街、自治会のイベントにおいて、資料作成、企画、運営の支援を図る。

② 宅配事業（2010年4月～）

《チーム》商店街×ボランティア×自治体×福祉関連団体

《内容》買い物弱者への対応 商店街支援

《地域課題》弱者救済のみならず、担い手不足の商店街の支援を図る。

③ 講習会（2010年4月～）

《チーム》学生×理事

《内容》小学生夏休みセミナー、講演活動

《地域課題》学生によるセミナー実施、地域学習の向上を図る。

代表理事による講演活動等組織の広報活動を図る。



【代表理事 講演】 京都府主催

【卓球教室・将棋教室】 書生生活の学生による

④ 美化活動（2011年4月～）

《チーム》社会福祉法人×企業×シニア×地域住民

《内容》地域の清掃及び花壇植栽・ペットボトルキャップ回収

《地域課題》地域の美化活動の担い手を募り実施を図る。

(4) その他の事業

① 広報事業

② 事業ゴミ処理斡旋事業

③ 連携事業

5 | 課題

(1) 運営について

設立8年目を迎え、地域での認知度、理解度は年々上昇しております。様々な依頼、連携の案件は増え、つなぐ役割は増すばかりです。仕組みづくりにより、人材は豊富な当組織ではありますが、より多くの課題に対応するためには、さらなる参加者、スタッフの連携先の拡大を進めて参ります。

(2) 財政について

組織がより安定した運営を継続させるためには収入源の確保が喫緊の課題となる。会費、寄付、事業、補助金の収入が4本柱です。地域課題解決の事業が多いことにより事業収入の増加がさほどには見込めません。よって活動に対する賛同者を増やし、会費、寄付金収入の増加を目指しております。現在2年後に認定NPO法人の取得をめざして準備を進めております。

6 | 今後について

(1) 組織として

現在、【書生生活】活動に注力している。その理由は、この8年間の活動の中で1つの活動でありながら、実に多くの課題が解決される要素を秘めているからである（以下①～⑨参照）。とにかく街に関わる人数を増やさなければ地域活性化は成し遂げられない。街において、乗算（かける）の部分（連携）が当組織の役割である。

【書生生活－事業構想】

大学の近くで街と関わりながら暮らす、学生の新しい生活

- ① 若者支援－・経済的負担の軽減（奨学金問題） ・時間的損失（学住近接）
 - ・正規雇用
- ② 空き〔部屋・家〕の活用－・ハード等の修繕コストの抑制
 - ・ソフト（活動）による付加価値
 - ・不動産業と協働 ・割安物件の提供

- ③ 地域の担い手不足解消－・地域参加《祭り・清掃・防災・交通安全・餅つき・年末警戒警備等》・多世代交流によるコミュニケーション能力の向上
- ④ 少子高齢化社会問題－・シニア－見守り、交流会、茶話会、等《ひとつ屋根の下プロジェクト》・子ども－夏休みセミナー等《学習支援》・多世代（シニア・学生）共生－実施
- ⑤ 地域経済の発展－・地域で暮らす ・地域で買う ・地域を使う
- ⑥ その他－・相乗効果－様々な地域活動への広がり
 - ・波及効果－地域拡大・物件拡大
 - ・大学連携－社会教育学・都市工学 等
 - ・プラットフォーム－設立・管理・運営

⑦ 【地域財産×地域課題×地域活動＝地域活性化】

本郷の地域財産とは？－大学、文化歴史、人財、病院、安全安心

本郷の地域課題とは？－空き〔部屋・家〕、担い手不足、少子高齢化社会

本郷の地域活動とは？－〔人・街〕つなぐ、NPO法人街ing本郷

- ⑧ 参加者現況(2017年9月)－参加者10名(出身地－地方7・近郊2・留学生1)
- ⑨ 貸室数－7室（提供する大家さんを募集中）

- 運営基盤強化－・財政状況改善 ・人づくり
- 活動の見える化－・情報発信（情報誌発行）・取材対応
- 連携先強化－・代表理事に来訪者1,000名超実績
 - ・つげなる組織の必要性、認識
- 地域の価値・魅力向上－・活動

(2) 代表理事個人の想い

なぜ？常勤者もなく、理事が全員商店主である組織が、次々と斬新な企画を生み出せるのか？この摩訶不思議な活動の仕組みに、疑問を解き明かそうと来訪者は後を絶たない。この8年間で、1,000名を超えた。国や都道府県、全国の市区町村の行政の方々、地域の自治会長、大学教授、研究室の大学生、マスメディア、報道各社、上場企業担当者・役員まで、実に広範囲にわたる。

興味をお持ちの方々はどこなたも分け隔て無く、視察、懇談、相談を受け入れている。縦割りになっている社会（街）の仕組みを活かしながら、横串につながりことで活性化する仕組みづくりは、どのレベルにおいても活用できると感じている。これだけ多くの方々が、来訪して下さるという事は、皆同じように行き詰まり、突破口を探しているのです。今の時代のフロントランナーとして切り拓いて行きます。

まもなく100年をむかえる家業を継ぐ三代目の私、この街に育てていただいて今日がある。今、その『想いを街に返す』時が来た。活動の源泉は、ここにある。

二枚の名刺、「パラレルキャリア」と称される2つを持つ働き方は、私自身にやりがいと生きがいを与えてくれている。街で生まれ、街で育ち、街で暮らし、街で働き、街を見続けている私にとって、街の衰退を見過ごす事はできない。10年後、20年後、50年後も街が元気であり続けるために、私でもできる事を考えた末、つなぐ組織をつくり、活動しやすい場をつくり、チームを編成、人づくりを行ってきた。8年目徐々に活動の芽が出始めている。活動の環境（パレット）をつくり、人（元素）が集まれば、イノベーション（化学反応・核分裂）が起こる。私は、それを促すカタリスト（触媒）の役割を果たす。おかげ様で、想いを共にするメンバーが増えた事が何よりもうれしい。私の力のごく僅か、できる事には限りがある。しかし、人が集まりやすい場をつくり、チーム編成すると、前例のない取り組みが前進する事はあきらかになった。今後も『人が集う』『事が始まる』環境づくりに尽力して行く。次なる活動テーマは、みんな誰でもが分け隔てなく社会（社会的包摂）に参加できる仕組みづくり向上と人材育成。2018年の開始に向け準備を始めている。

最後に『横の連携』も大切な使命であるが、『縦の連携』すなわち次の世代に時代を引き継ぐ事こそ、私の最大の役割と感じている。私たち、商店主のもとには日々街の情報・声が入ってきます。『街の声をつなげて笑顔に！！』この持続可能な社会（街）をめざす、前例なき挑戦はまだまだ続きます。

生まれも育ちも本郷の商店主たちのあきらめない想いがチームの最大の武器なのかもしれません。そして、代表の私がこの困難であろう道を選んだ事、幸か？不幸か？の答えは、まだ先のようなです。また、この小さな街の小さな挑戦が他の地域で活性化をめざす同志に勇気を与えられたら幸いです。



【活動報告】 ・隔月発行 街ingだより



・月報 書生閑話



作成：書生生活の学生



街ing本郷 ロゴ





【文人郷談議】 森鷗外のふるさと、津和野町と文京区の住民の交流 2013年10月26日



【ひとつ屋根の下プロジェクト】 活動報告会 シニアと学生の交流 2016年3月6日



【書生生活】 地域自治会 夏まつりに参加する学生 2017年7月17日